

都難言協

第1回 専門研究会

指導につながるアセスメント

~合理的配慮の視点~

文京学院大学

柄田

毅

難言教育の専門性向上のために

会長 森 真二(あきる野市立前田小学校長東京都公立学校 難聴・言語障害教育研究協議会



言うまでもなく、ことばは最も大いないとのできれば、真意が伝わらないことも少なくありません。人と人がことも少なくありません。人と人がらを付けたりしながらことばを伝えりを付けたりしながらことばは最も大いできれば、本当の気持ち

都

子供たちのきこえやことばへの苦できるようにすることが、難言学級できるようにすることが、難言学級

い、「今、この子にとって一番大切は、相談に訪れた子供たちに向き合めりません。難言学級の先生方難言学級の指導には、教科書が

門の教師を目指していきます。

子供たちにとって頼りがいのある専会を最大限に活用し、これからも、

な指導・支援は何だろう?」「聴力な指導・支援は何だろう?」「聴力音は? コミュニケーション力は?」 など様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、前導を行うために、専門的な知識や指導を行うために、専門的な知識や指導を行うなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行い、一人一人のなど様々な分析を行いている。

習の てほしいと思います。 級の指導に向き合う気持ちになっ割 てよかった、また来よう。」と通

① ことばときこえの教室の役割

児童生徒の障害等による学習ののでもない。障害による学びにくるわけではなく、障害を克服するのでもない。障害による学びにくさを助けることが、ことばときこえの教室の中核的な実践なのではないかと思います。

の配慮の範囲

やはり通級の先生です。

さや困難を一番分かっているのは、

児童生徒の障害による学びにく

児童生徒への配慮は、通級での 現立 現境、在籍学級の状況、学校のス の の に必要な施設設備、その環境下 が に必要な施設設備、その環境下 が に必要な施設設備、その環境下 が で行われる全てを専門的な視点で で行われる全でを専門的な視点で

に学び合う雰囲気で迎えて、「来「ようこそいらっしゃい。」と一緒通級する児童生徒や保護者に

③ 周囲の理解を広げる

明していただきないです。
解していただくように取り組んで学級担任、学校、保護者などに理学級担任、学校、保護者などに理

(文責:奥田和也



都難言協 全体研究会 講演会

才

能 を引き出す学習環境と C T の活 用

東京大学 教 授 中 邑 賢龍 先生



テクノロジーは人を揃える

も「あっ!」と声を出す。 ました。施設の方も「あっ!」私 きるようにして野球ゲームを作り た。そこで声を電気信号に変換で れられ重度障害者施設に行きまし われた言葉が忘れられません。 ったときに嬉しい。」 「これを使えば対等だ。 でいました。あるとき教授に連 は 学生時代、 実験心 理学を学 そこで だから

いうことを実感した瞬間でした。 テクノロジーは人を揃えるのだ

医療モデルから社会モデルへ

でした。今の教育は障害をこの ベルに分けた画期的な階層モデル の医療モデルは、 С 1 モデルで捉えています。 I D 9 H)が提唱されました。 80年に国際障害分類 障害を三つのレ Î ے 医

長 く続いたモデルですが、 際障害分類(ICIDH) 次第に は

> ます。 育や福祉に大きな影響を与えてい たのです。 が変わるということが分かってき や生活環境によって障害の影響度 た。その人のもつもともとの能力 いにも関わらず未だに特別支援教 があることが分かってきまし しかしこのモデルが古

としたりしています。 る状態として障害を捉えていこう モデルでは、環境要因と個人要因 能分類(ICF)です。 の影響を考慮したり、 そこで生まれたの が国際 誰もが有す この社会 生 活機

す。 ラインを揃えられる社会を作って くテクノロジーを使ってスタート いけたら良いと、 このモデルをもとに、一 私は考えていま 刻 も早

三、 技術の進歩によって変わっていく

インパクトがあったテクノロジー て 医 いきます。 療技術の進歩は障害を減らし 聴覚障害領域で一番

> されてきて障害が大きく変わりつ フラとしてインターネットが整備 つあります。 メールでしょう。 社 会イ

ン

とには、疑問が残ります。 る不適応を、発達障害と捉 きています。 がないと働きにくい社会になって 書き・コミュニケーションの能力 一方、産業構造が そのような中で起き 変 わり、 えるこ 読 3

らず、 学力〟だけを価値の軸にしがちで けていきたいものです。 こうとすることは、できるだけ が、様々な形での社会参加を認め すが、一つの価値観のみにこだわ すかどうかが大きいのです。、裸の ることにつながります。 人間像を作ってそこに近付けてい ここでテクノロジーの活用を許 特性の違いを理解すること 標準的な 避

四 機能から把握する

します。 か取て れ困 ない身体障害の方、 掴みづらい発達障害の方、な れない聴覚障害の ない」という困難は、 難とは何か。 害種別を超えて困 由は異なりますが、 数多くの障害に共通する 例えば 方、 言葉が聞き 難さは存 「メモが取 何が要点 鉛筆が持 木 在

> それこそが教師の役割ではないで しょうか。 いく必要があるだろうと思います。 る機能を把握して、 たちにICレコーダーを渡すよう は 共 障害種別を超えて、 通 して います。 支援を考えて その全て 困難であ 0) 人

五 これから必要なこと

か。 場所を考え、 的な障害種別の判断ではなく、 く 教えていくことではないでしょう の子に合ったコンテンツや合った 特別支援教育に必要なのは、 障害のある方を変えるのではな 社会を変える必要があります。 本当に必要なことを 科学 そ

供の実態も変化していきます。 o f て社会は大きく変化していき、 先生の教え方、教えている内容 I О T h i Τ Î n n g S t e r 時 е 代によっ n е 子

きゃ これから先のことを考えていかな はそのままでいいのでしょうか。 いけないと思います。

(文責:奥田和也)

※保護者の声(構音)※

○授業を抜けるのが親子で一番心配でした。でも 通い始めると、友達に隠すことなく、「結構楽しい」 と言い出したので安心しました。 短期間で成果は 出にくいと聞いていますが、本人にも分かる成果が あると、もっともっと積極的に練習するかなと思い ます。でも、親は焦らずに!と自分に言い聞かせて います。

○「ウチの子、時々会話が聞きづらいな。でも子どもってこんなものかな。」初めは親自身が気にしていなかったというのが実情でした。担任の先生から「こういう教室があるんですが…」と紹介していただいたのを機に、通級を始めました。

本人が「他の子たちと違う」というマイナスイメージをもつのではないかと心配していましたが、そのようにはならず、宿題も日課として定着しています。親の心配はどこへやらで、今はマイナスなことは何もないと思っています。毎日の生活の中でどれだけ成長しているかは分かりづらいですが、将来のための準備、練習をコツコツ積み上げていきたいと思います。(保護者の方々の声)

~担任の先生方へ~

発音に誤りのある児童・生徒への配慮について

ことばの発達は、1人1人違います。また、発音を獲得する順番にも個人差があります。発音の誤りは心身の発達と深いかかわりがあるため、いつから指導したら良いかということは一概には言えません。しかし、幼い話し方や発音の誤りについて、本人が恥ずかしい思いをしたり、友達にからかわれたりすることで、話す意欲をなくしてしまうこともあります。

○発音の言い直しや注意を控えて、話す意欲をもたせます。

発音の誤りを指摘して言い直しをさせると、話す 意欲をなくしてしまいます。長所を認め励ますこ とで、話すことへの自信をもたせることが大切です。

- ○**言い直させるのではなく、正しい発音で返します。** 子供が「は<u>た</u>みを かして」と言ったとしても、「そ う、は<u>さ</u>みね」と正しい音のモデルを聞かせてください。このことは、正しい発音の獲得に役立ちます。
- ○発音について、周りの児童・生徒からからかわれないようご配慮ください。

発音に誤りがある児童・生徒のことで相談がありましたら、お近くのきこえとことばの教室、または、各区市町村の保健センターや教育委員会にご相談ください。

(言語学級担任)

* 卒業生の声(難聴) *

わたしは小学校から中学まで9年間、きこえの 学級に通級していました。

小学校では知己に、中学では生涯の恩師に出逢いました。他にもたくさん学んだことはありますが、なによりもこの"出逢い"をわたしは得ることができました。

いまわたしがたくさんの"出逢い"を大切に過ごせているのは、もしかしたらきこえの学級が原点かもしれません。

わたしと母がそうだったように、難聴の生徒、その保護者のみなさんは、きこえの学級がほんとうに 心の支えになっていると思います。

そして、きこえの学級での時間は人生の中でかけ がえのない思い出となります。

どうか生徒、その保護者のみなさんが"出逢える" 空間をつくり、そして先生自身も、"出逢える"日々 をお過ごしください。

(平成22年度卒業生)

~担任の先生方へ~

聞こえにくさのある児童・生徒への配慮について

難聴は、理解されにくい障害であるといわれます。 それは、次のような理由によります。

- ・聞こえているかどうか外見からは分からないし、 聞こえ方を伝えるのも難しい。
- ・聞こえは、周囲の環境や心身の状態に左右されや すく、同じ音でも聞こえる時と聞こえない時がある。
- ・難聴の子供自身も、自分の聞こえしか知らないの で、「聞こえている」と思いがちである。

正しく理解されないと、誤解が生まれ、「聞こえただろう」と思われて十分な情報を得られないままになったり、「無視した」と思われて友達関係の悪化を招いたりしかねません。

そこで、学級担任の先生には、壁を隔てて隣の音を必死に聞いている感じを想像してもらいたいと思います。何かが聞こえているけれど、はっきりは分からない状態です。その時、助けになる物・事は何でしょう。

- ①座席の配慮(近い方が聞こえ易い。前から2番目。) ②環境の調整(静かな方が聞こえ易い。話し合いに も配慮を。)
- ③文字情報(話題が分かれば聞こえ易い。)
- ④子供の顔を見てはっきり話すことも大切です。

そして、何より「難聴の子供は困難さを抱えている」ことを忘れないでほしいと思います。

(難聴学級担任)

置・対策委員会

言学級の実態を把

握

題

0)

解決に向けて活動しています。

☆主な業務内容☆

基本調査の集計と結果の報告

区市教委向け「提案書」

| 作成

■研究推進委員会

専 門 委 員

会

不可欠です。 難言教育には専門的知識と技能

ます。今年度も充実した研修・ プを目指す教員向け「課題別研究会」 事例研究会」、難言担当の全教員向 「基礎研究会」、さらにステップアッ できるよう努めていきます。 そこで、着任1~3年の教員向け 「専門研究会」を企画運営してい

大会・学会・研究会などのお知らせ

第46回全難言協全国大会(近畿)

を発信しています。

会報

(年2回)

紀要

会員の皆様に役立つ、

様々な情報

広報委員会

関係団体との合同研究会の記録 都教委との意見交換会出席

でお知らせください。 の点がありましたら、

それぞれにつきまして、

お気づき

広報委員会ま

継送電話連絡網

設置校一

【大会主題】個々の子どもたちの課題に合う指導や 支援のあり方を考える

~聴覚・言語障がい教育の専門性を高めるために~

【日程】7月27日(木)·28日(金)

【会場】天満研修センター

【問い合わせ先】大会事務局長 足立 貢

(大阪市立北中道小学校 難聴学級)

〒537-0025 大阪市東成区中道2-9-20

TEL 06-6971-0440

E-mail:kinki-convention@outlook.jp

第51回全日本聾教育研究大会(秋田大会)

【テーマ】主体的な学びを通した確かな学力の向上 ~聴覚障害教育の専門性の継承・共有を踏まえて~

【日程】10月19日(木)·20日(金)

【会場】秋田県立聴覚支援学校

秋田キャッスルホテル

【問い合わせ先】〒010-1407 秋田県秋田市上北手百 崎字諏訪ノ沢3-127 (秋田県立聴覚支援学校) TEL 018-889-8572 FAX 018-889-8575 E-mail:zennichirou@akita-pref.ed.jp

(大会事務局:黒澤

全難言協夏期全国研修会「はじめのいっぽ」

【日程】8月2日(水)~4日(金)

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター 【問い合わせ先】世田谷区立烏山北小学校

きこえとことばの教室(大井)

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山6-3-1 TEL 03-3309-3420 (教室直通)

第50回全国情緒障害教育研究協議会(東京大会)

【日程】7月26日(水)~28日(金) 【会場】帝京平成大学 池袋キャンパス 大会事務局 【問い合わせ先】都情研 府中市立府中第三小学校 校長 宇都宮 TEL 042-361-9003 FAX 042-334-0866

第50回日本言語障害児教育研究大会

FAX 047-409-0512 (FAX専用)

【日程】8月10日(木)·11日(金) 【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター 【問い合わせ先】櫻井 正二郎 〒276-0041 千葉県八千代市麦丸1136-

編集後記

だいた皆様に厚くお礼申し上げます。 ていただければと思います。 ご多用中の折、 本会報を日々の教育活動に役立て 原稿をお寄せい

ぞよろしくお願いいたします。 動が円滑に進むよう、 研を立川七小、全体研究会を福生 が担当します。 クと次期事務局の江南ブロックの一 微力ながら尽力して参ります。 ています。日々の通級指導や研究活 小、懇親会を武蔵村山九小が分担し ブロックの烏山北小、 士見丘小、 今年度 設置校長部会を前田小、 の事 調査対策を河辺小と江 **}務局** 庶務 は (事務局)を富 会計をけ 事務局として 匆 摩 西 「ブロ 通級 どう やき 名 七 南

事 務 局 ょ ŋ

都難言協会報 発行数 代表者 責任者 平成二十九年七月四 **会** 五八〇〇部 (広報委員長) 土田 有限会社 長 森 正陽印刷 昇

